



# 木林木の譚

二十世紀の森づくりシリーズ 95

## 十一月の木の花

コバノセンナ。平成十五年一月 配布しました「コバノセンナ」は、赤ちゃんの誕生記念樹として どのようになったでしょうか？



久我記念美術館に、この時植えたコバノセンナは、去年は見事な花を付けました。しかし、去年は多くの台風が直撃して無残にも倒されてしまいました。仕方なく幹を、地面から五センチほど残して上を切ることに

なり、「今年は、花は無理か...」と思っていましたら意に反して綺麗に黄色の花を付けました。どう見ても、今年は咲くまいと思えるような切り方でしたので、まさかこのような状態で、花が見れるとは全く考えていなかったもので、うれしい誤算でした。九月の台風で被害に遭いましたが、十一月にはもう脇目の枝から多くの花を付けましたので、本当に驚かされました。

この花は、どこかで見たことがあると思っていましたら、ハブソウ茶のハブソウに似ています。ただし、ハブソウは花が小さく少ないのですが、葉はそっくりです。木の花の少ない時期に、極めて綺麗な黄色の花をつけるまめ科のコバノセンナ。寒さには弱いようですが、町内では、今のところ問題なく育っています。

(高)

珍しい木・想い出の木・不思議な木・植物好き・花好きなどに木にまつわるおもしろい話を教えてください。

連絡先 歴史民俗資料館  
〒932-6312

### 歴史民俗資料館

### 昔の生活民具シリーズ... 55

#### 唐箕 (とうみ)

脱穀した籾、麦、大豆などに混入する稗切れ、わらくす、こみ、未熟粒の選別に、また、玄米中のくず米の除去にも使用されました。中国から伝来して、我が国の農家では、選別用具として最も大形で、主要な機具となりました。昭和30年代まで広く使用され、現在も一部使用されています。手回しハンドルにより、4枚羽根の羽根車を回転させます。漏斗から落下する選別物は、風力により、一番口、二番口、三番口に分別して、精粒、くず粒、わらくすとなります。選別性能の高い動力機の普及により利用されなくなっています。



写真の「唐箕」の寸法は、高さが116.2センチ、横幅は154.5センチと61.5センチ。採集地は粕屋郡須恵町長礼。購入されたときや所有者は、昭和廿六年拾壹月貳拾八日 求 早見下町 小林 孝 所有」となっています。

参考文献 写真でたどる農機具の発達史 農林水産省農林水産研究情報センターより

## 向う三軒両隣

～すみよい地域づくりを目指して～

### 社会教育委員会からの提言

「家庭教育」を基本とした新たな「地域づくり」の視点にたった生涯学習の在り方について、4人の社会教育委員さんから提言がなされましたのでご紹介します。



### 「隣は何をする人ぞ」

社会教育委員会代表 木下 英美さん

きのした ひでみ

社会教育委員：学校教育および社会教育の関係者ならびに職経験のある人から選考され、社会教育に關し、教育長を通して教育委員会に助言を行うため、教育委員会から委嘱された方です。

られた物はないのかと考えもします。以前は、隣組合でも頻りに寄り合いがあつていました。婦人会は地域社会の発展に貢献し、意欲的な活動がなされてきました。

また、若い世代の青年団もエネルギーに活動していたように思います。もちろん社会情勢や家庭環境は随分変わってきたのですから同じような活動はできないかもしれせん。

しかし、「隣は何をする人ぞ」では寂しすぎる気がします。

これから少子化は進んでいきます。また、私たち団塊の世代が引退し、家にいることも多くなることでしょう。

若い頃できなかった趣味や学習をしてみたいと思いの方もいらっしゃるでしょう。

そんな時間のなか、地域の行事などにも積極的に参加し、若い世代や子どもたちとも交流しながら生活を楽しんでみてはどうでしょうか。

「ただいま。」ランドセルを置くなり、バットとグローブを持って走り出す。「お帰り、宿題は？」母の声が遠くで聞こえました。

私たちの少年時代、遊び場はいたるどころにありました。と言うより、何の変哲もない場所や物でも遊びに変えていく器用さがありました。子ども同士のトラブルは子ども同士で解決し、特に上級生のお前が悪いの一言は絶対的なものでした。

父親たちは仕事に忙しく、休日だからと言って一緒に遊ぶことなどほとんどありませんでした。

団塊の世代といわれる私たちが育つ

た時代から半世紀ほどが過ぎ、その間に日本の経済は急成長し、住居も広く機能的になり、教育施設もきれいになり、子どもたちが遊べる公園など、環境も整備されました。

家事に専念していた母親たちも外で働くようになりました。少年の頃を思い出すと、昔はよかつたなと思いはしても、欲しいものはほとんど手に入るし、楽しみも多く、現代は幸せな時代だなと感じています。

でもそんな生活のなかで何か忘れ



地域行事に積極的な参加を (新原区盆綱引き)